

教育目標 **こころをひらき みらいをひらく**



かけはし

太田東小学校 学校報

令和2年度 第43号

2021. 3. 11



東日本大震災から10年 ～昼の放送で話しました～

4年生以上はみなさん生まれていたと思いますが、10年前の今日、3月11日、東日本大震災といわれる大きな地震があったことは知っていますね。地震の避難訓練のときや、毎年この時期のテレビ番組や新聞でも大きく取り上げられています。

この地震は、宮城県沖の太平洋の海底を震源とするもので、特に、岩手県、宮城県、福島県の被害が大きく、日本周辺における観測史上、最大のものと言われています。津波などで死者・行方不明者は18400人を超え、関連死を含めると22000人以上と多くの犠牲者が出ています。地震が発生したのは、午後2時46分で、毎年この時刻、なくなられた方を悼み悲しみの気持ちを表す「黙祷を捧げる」というお祈りをしていますが、今日はその時刻は下校時間になりますので、みんなそろっての黙祷はできません。でもお祈りの気持ちは持ってほしいこと。これからもいつ起こるか分からない地震について、命を守る備えを忘れないでほしいこと。覚えておいてほしいと思います。

それから、この東日本大震災以降、昨年度まで、太田中学校では花のプランターを岩手県の大槌学園に届けるなどの交流を続けてきたこと、私たちの太田東小学校でも田んぼのお米を届けてきたこと、このことも覚えていてほしいことです。

もう一つ、この地震のときのことで、私が感じたことを話したいと思います。

この地震の直後から3年間、私は、岩手県に住むことになり、被災した宮古市というところの避難所や大槌、陸前高田などにボランティアに行く機会が何度かありました。多くの人が亡くなったり、住むところをなくしたり、家があっても食べ物や水、そのほか生活するために必要なものが手に入らない状況が長く長く続きました。3月、4月の寒さ、深い絶望と悲しみの中にあっても、取り乱したり自分勝手なことをしたりする人々は、ほとんどいませんでした。食べ物や飲み物、灯油やガソリンなどを手に入れるために、長い列になって並び、きちんとお礼を言って救援物資を受け取る人々。道路に座り込んで動けなくなったお年寄りを、交代で背負い、助けた中学生たちもいました。日本人のこれらの振る舞いは、世界中のニュースになり、多くの人たちの感動を呼んだのです。

私たち日本人には、そのときの状況に応じて、全体のことや相手の立場を考え、思いやり、判断して、言葉や行動を選び、温かく優しい態度で表すという力・遺伝子が備わっていると私は信じていて、またそうでありたいと思っています。

地震とはちがいますが、今もコロナウイルスの影響が大きく、様々な工夫や我慢が求められていますね。それでもみんなは、自分たちなりに受け止め、今やるべきことを一生懸命にがんばっています。今の学年も残りほんのわずか、卒業、進級に向けてやり残しのないように、よく考え、判断してしっかりと取り組んでいきましょう。

長信田っ子の活躍

33回森吉山スキー大会
○小学校6年女子大回転競技 第4位 大信田●●さん



